

へエコレシピアエスター一日目

お好み焼きを題材に料理からエコ

地域ならではの風味や物語を発表

「ecoチャリ談義」

広島市地球温暖化対策地域協議会の会員四人がパネリストとなり、自転車利用促進の意義やこれまでの取り組みなどについて発表した。

道路の段差をなくしたり、道幅を確保するなどのインフラ整備の必要性や、「まちなかに手軽な駐輪場（チョコ駐）が必要」と題し、シンプルな駐輪器具の広島での設置の可能性を検討した活動報告がなされた。

これらの発表の後、会場が一体となった「談義」が行われ、「チョコ駐」でできる企業や商店の参加を募り、自転車にやさしい店マップを配布するなどして積極的に展開すべき」といった意見が出された。また、その実現には県内各地の地球温暖化対策地域協議会同士の連携が不可欠なことが示された。

「エコのみ焼きコンテスト」

県民になじみ深い「お好み焼き」を題材として、料理から気軽に取り組めるエコ（温暖化対策）を競うもの。県内各地からエントリーのあった十一のレシピのうち、六つのレシピがコンテストに参加した。

エコなポイントとして、「ごみになるべく出さない」、「水を上手に使う」、「エネルギーを上手に使う」、「地産地消の食材を使う」の四点が示され、応募者の工夫によってさまざまなアイデアの凝らされたレシピが集まった。

コンテストは、広島でおなじみのタレント大松しんじ氏と村上ゆみえ氏の二人による軽快な司会で幕を開け、審査員には、オタフクソース株式会社「お好み焼館」館長の松本重訓氏、株式会社フレスタ「デリカフェ・カジル」料理長の竹田耕治氏、当会からは「脱温暖化センターひろしま」センター長の薦田が参加した。

審査員はそれぞれ、料理としての味や色彩、お好み焼きとしての完成度、CO₂の削減効果やチームワークなどの観点から審査を行った。エントリー団体によるPRタイムと審査員による試食・講評のあと、一般参加者も交えた投票となった。

いずれのレシピも、食材を無駄なく利用したり、焼く際のエネルギー効率を高めるために容積を小さくするなどの工夫が凝らされていた。また、火力として地元の間伐材で作った薪や竹炭を使うなど、究極ともいえる工夫も披露された。



自転車の使い方や利便性について積極的な意見交換がされたecoチャリ談義（上）、エコのみ焼きコンテスト審査員の竹田シェフ（中左）と松本館長（中右）、審査員の審査の後、来場した一般参加者も試食を行い、投票に参加（下）



レシピのPRをする「脱温暖化ネットおんど」のメンバー

審査員はそれぞれ、料理としての味や色彩、お好み焼きとしての完成度、CO₂の削減効果やチームワークなどの観点から審査を行った。エントリー団体によるPRタイムと審査員による試食・講評のあと、一般参加者も交えた投票となった。

いずれのレシピも、食材を無駄なく利用したり、焼く際のエネルギー効率を高めるために容積を小さくするなどの工夫が凝らされていた。また、火力として地元の間伐材で作った薪や竹炭を使うなど、究極ともいえる工夫も披露された。

今回のコンテストにより、エコのみ焼きの食材には、地域ならではの風味や物語があり、脱温暖化を含めた町おこしの可能性をもったものであることが分かった。

審査員からは、今後もこのコンテストを継続し、地域協議会とエコのみ焼きを結びつけて、県内での定着はもちろん、広島から全国に発信できるようなものにしていきたいと意気込みが語られた。

（脱温暖化センターひろしま）

中華人民共和国四川省を訪問して

友好都市と環境分野の技術交流

水ビジネスの現状を調査

一・三倍で四十八・五万平方キロ、人口は八千九百万人の大きな省である。複雑な地形

パンダの約七十%が四川省に生息しており、世界最大の研究施設が存在する。四川省の省都である成都市は大都市で、高層ビルが立ち並び、車と人があふれ、非常に活気に満ちていた。食事は有名な四川料理をいただいたが、大変辛い

今後の人的な交流や経済的な交流について話し合いがなされた。また、資陽市、簡陽市、都江堰市を訪問し、下水処理場などの施設を見学してさまざまな技術交流を行い、当会からも環境に係わる情報を提供した。四川省の行政機関には、広島県で研修された職員も多く、幹部として活躍していた。

四川省では、成都市にある環境保護庁、商務庁を訪れ、

今回の訪問では、四川省の環境保護活動や上下水道施設の技術的なことを学ぶことができた。また、中国の文化などさまざまなことについて触れることができ、非常に有益な体験をさせていただいた。今後とも広島県と四川省の環境技術交流と経済交流が進展することを願うと同時に、環境保護と経済発展が正しく両立するため、当会の技術や知識を役立てたい。

（新事業開発室 空本祐三）

で、多様な生物が存在し、三千種類以上の漢方薬の原産地でもある。また、中国国内の



人的、経済的交流について話し合いがもたれた右列手前が筆者

一丸となって事業発表

（新事業開発室 空本祐三）

「わが町の温暖化対策『エコレシピア、オーディション』受賞団体エコレシピア紹介

審査員特別賞

●福山市泉学区公衆衛生推進委員会・矢田町内会公衆衛生部

「スクラム組んでソーラーパネル」

「SUN・燦・参加（さんさんさんか）」を合言葉に、資源回収による収益金を活用して、3年がかりで集会所の屋根に太陽光発電パネルを設置。集会所で消費する電力をまかなうと同時に、地球温暖化やごみ問題などの啓発も行う。

また、リデュースとリユースに重点を置き、ダンボールコンポストに取り組む団体を視察し、習得した知識と技術で講座を開催し、生ごみの削減を実現した。その他、小学校や幼稚園に呼びかけて、紙芝居やマイ箸づくり教室を開催。小学校の修学旅行では、割り箸を使わずマイ箸で食事をした。

常に、発案、学習、研究、確認、啓発、実行をモットーとして、コツコツ努力を重ねてきたことが高く評価された。



一丸となって事業発表

●広島市地球温暖化対策地域協議会

「エコチャリ都市ひろしま」実現事業

広島市の家庭から排出されるCO₂のうち、約40%が自家用車によるもの。そこで、自転車利用を促進し、自家用車の利用を抑えることでCO₂の排出を削減し、健康にも環境にもよい「エコチャリ都市ひろしま」の実現を目指す。

自転車利用の実現を阻む原因を把握するため、買い物、初詣、通勤などを想定し、アンケートによる調査を実施したところさまざまな原因が浮かびあがった。また、市街地での駐輪場の整備状況や放置自転車の実態調査などから、気軽に駐輪できる場所として「チョコ駐」＝（ちょこつと駐輪できる場所）を提案し、その実現性について検討した。

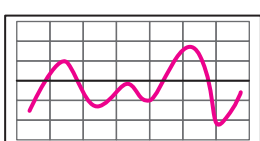
自転車利用を促進するために、アンケートや現地調査によって、さまざまな制約があることを明らかにし、これらの課題を、複数の団体と協働しながら解決しようという姿勢が高く評価された。



「チョコ駐」を披露する発表者

水質検査のご案内

井戸水・山水などを安心してお飲みになりたい方へ



検査

適合

不適合

相談

問題解決

再検査

検査項目・搬入方法等詳細についてはお気軽にお電話ください ☎ 082-293-0163

広島県では、1年に1回水質検査を行うことを推奨しています。

財団法人 広島県環境保健協会
（水道法に基づく厚生労働大臣登録検査機関）
広島市中区広瀬北町9番1号